

## 浅野川大橋・大正ロマンの復元

金沢大学大学院(真柄建設) 正会員 安達 實  
建設省金沢工事事務所 正会員 的場 純一  
金沢大学工学部 正会員 北浦 勝

### 1. まえがき

金沢市内を流れる浅野川に架かり、市街地中心部にある浅野川大橋は、金沢の幹線道路の関門であり、金沢市民に親しまれている名物の一つである。

古くは北国街道の橋で城下の北の関門であった。今は国道159号の一日3万台余りを通す金沢市内の重要な橋としてその役割を果たしている。

浅野川大橋は金沢市内のもうひとつの橋・犀川大橋と同じく、加賀藩祖・前田利家が1594(文禄3)年に架けたのが最初で、当時の文書に架橋のことが残っている。以来大雨洪水や老朽で架け替えは幾度もあった。藩政古文書から拾いだしてみると、文禄3年の架設以来藩末までに架け替えと修理など18件の記録がある。県立図書館蔵の「延宝金沢図」によれば、当時の浅野川大橋は長さ50間(90.9m)、幅3間(5.5m)であった。藩政期には橋番がおかれ、橋の管理と通行人を調べていた。明治維新以後本格的な架け替えは1876(明治9)年で、橋長34間(61.8m)、幅4間(7.3m)の木造板橋、行桁1尺3寸×1尺1寸の5主桁5径間であった。木橋最後の架け替えは1903(明治36)年で、同じく橋長34間、幅4間、工事費9,800円であった。

### 2. 永久橋の建設

その後交通頻繁な都市の交通要路になってきたのと市内電車の布設の必要上、永久橋に架け替えることになり、1921(大正10)年起工、翌22(同11)年に完成した。橋長30間(54.5m)、幅員は車道41尺(うち軌道16尺)、歩道両側に5尺ずつ合わせて51尺(15.5m)である。

構造はモニエル式鉄筋コンクリートアーチ3連で、中央径間55尺、側径間53尺。使用したコンクリートは311立坪(1,866m<sup>3</sup>)、鉄筋(丸鋼)は99トン。鉄筋の内訳は径1吋(25mm)39、7/8吋34、3/4吋13、1/2吋8、1/4吋5トンである。コンクリートの配合は鉄筋部1:2:4、その他は1:3:6と1:4:8である。コンクリートに用いた洗砂利は県下で最も良質の骨材を産する手取川のものとし、洗砂は犀川産で尖鋭稜角の粗粒たるべしと指示されている。工事費は上部工3連69,900円、下部橋台工2基13,200円、橋脚工2基15,100円、その他6,900円、合計105,100円。

### 3. 補修そして大正ロマンの復元

大正11年の架設以来、補修は幾度も実施された。大雨による出水、戦時中の高欄などの金属類の供出、戦後のモータリゼーションの進展による交通量の増加や車両の大型化などに伴う路面の損傷などに対して手当てはなされたが、伝統都市金沢のイメージには程遠いものであった。浅野川大橋は金沢にとって、大正時代の歴史的・文化的な遺産であり、東山地区や浅野川周辺を訪れる多くの観光客に親しまれていることから、従来の機能本位の補修に加えて、架設当時の図面や写真をもとに大正時代の美しい姿を復元することになった。周辺の景観との調和については、当時金沢大学の小堀為雄教授(現金沢学院大学教授)と金沢美術工芸大学の山岸政雄教授が助言され、全体として大正ロマンの復元を基本に周囲の街並みや浅野川の流れとの調和が達成された。

キーワード 大正時代・コンクリートアーチ・文化的改修

連絡先 ㊟920金沢市小立野2-40-20 金沢大学工学部土木建設工学科 ☎0762-34-4654 FAX0762-34-4644

①舗装 車道路面は重交通の影響で傷んでおり、これを大規模に補修した。歩道は建設時からアスファルト舗装であったが、人造白みかげ石を敷いた舗装とし、快適な歩行と散策ができるようにした。

②高欄 戦時中の木製は戦後鋼パイプのものになったが、大正架設時のイメージに近い唐草風模様はめこみの格子高欄とした。また照明灯も架設時のイメージに近いものとした。

③側面 大橋の姿は橋の上、下流の側面からの眺めがすばらしいことから、側面部の清掃はもとより、加賀藩古来の伝統的色彩・赤戸室色のセラミックスセメント吹き付けとし、橋脚部にあるモルタル造りのレリーフは人造白みかげ石で復元した。

#### 4. おわりに

明治末の石川橋（長さ30尺、1連）から大正期の本橋など、金沢市内においても鉄筋コンクリートアーチが流行ったことがあるが、都市内でのアーチは河川断面を損なうため、以後建設されていない。

卯辰山麓の街並みに優しい情緒と風情を漂わす浅野川の清流では、伝統ある「友禅流し」や「ゴリ漁」が今も行われており、この地域は「金沢市伝統環境保存区域」に指定され、金沢市を代表するシンボル地域となっている。この状況のもとで、大正時代の姿をそのまま残し、この橋のもつ重厚なイメージが周辺の景観とよく調和し美しい姿を川面に映えるように、土木技術者達が努力していることを申し添えたい。

本報告をまとめるに当たって、建設省金沢工事事務所の方々のお世話になりましたことに、感謝の意を表します。

参考文献 金沢市史（大正5年）、本邦道路橋輯覧（昭和3年）、日本道路史（昭和52年）、建設省金沢工事事務所よみがえる浅野川大橋（平成元年）、その他石川県史、加賀藩史料、北国新聞など。

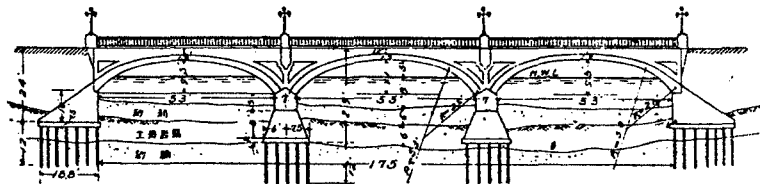


図-1 浅野川大橋 一般図(本邦道路橋輯覧より)

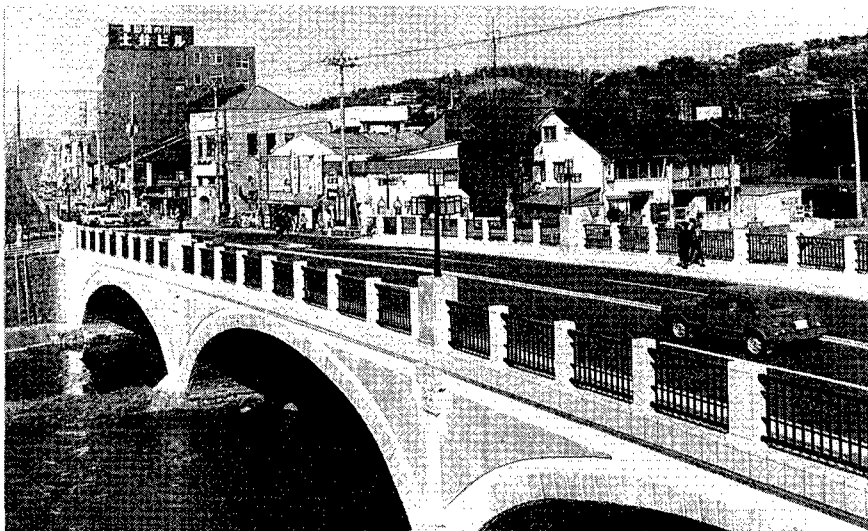


図-2 よみがえった浅野川大橋(よみがえる浅野川より)